



認定子ども園 竹の友幼児園だより



〒959-1503 田上町大字原ヶ崎新田 1978 E-mail takenotomo@town.tagami.lg.jp

No. 6
R7.8.22



※毎週木曜日には、
こぼの相談会が
あります。

- 6日(土) 希望保育(園開放)
- 10日(水) えいごであそぼう
- 12日(金) 観劇 ちょうちん座(2~5歳児)
- 13日(土) 希望保育(園開放)
- 15日(月) 敬老の日
- 17日(水) えいごであそぼう
- 19日(金) 食育の日
- 20日(土) 希望保育(園開放)

- 23日(火) 秋分の日
- 24日(水) 避難訓練
- 26日(金) 園だより配付、布団・靴持ち帰り
- 27日(土) 希望保育(園開放)
- 30日(火) 各種たより配付

※園開放日は、お家の方と一緒にご利用ください。
利用方法は玄関の掲示物をご確認ください。

園行事紹介

【親子ふれあい遊び】

「運動会」から「親子ふれあい遊び」になり今年で3年目です。親子が一緒に参加できる行事にすることで、**子どもの主体性を伸ばし、保護者の皆さんが子どもの成長をより実感できる行事へと変わってきました。**

いろいろな園行事が、子どもの興味・関心・意欲を引き出す活動を支え、自己肯定感を高めるために、園の教育目標に沿って、子どもを主体においた生活からの行事となるように意識して計画され、そういった活動から次のステップとなる**小学校での「主体的で対話的な深い学び」**につながると考え実施されているものです。

この活動を通し、**子ども一人ひとりの良さが発揮され**、その子らしさを大切に、その成長に有意義で価値ある行事になるよう、また保育者や保護者などの大人側からの発想の行事になっていないかなどを観点に見直し検討を重ねて進めています。

また、**集団活動が苦手なお子さんも、自分らしい参加ができ、充実感が得られる**よう配慮され、単に勝敗やできた・できないで評価されることなく、その子の成長を感じ、親子で一緒に体を動かすことを楽しめるように進めていきます。

3歳以上児では、企画・準備の段階でも体を動かすことをたくさん楽しみ、友達と話し合い、いろいろ試す中で多くの学びがあり、そういった当日までの**過程を大切に過ごす**ことで大きく成長することを期待します。

ご家庭でもその過程を子どもと一緒に楽しみ、当日に同じ気持ちで参加できるように、ご協力をお願いいたします。また、お時間の都合がつけば、いつでも園へお越しいただき、その様子を一緒に体験し楽しんでください。

0歳児から5歳児まで、それぞれの子どもの発達段階に配慮しながら、子どもを主体とした親子ふれあい遊びを計画しています。

詳細は、この後の各学年だよりで随時お知らせ致します。

観劇 ちょうちん座(2~5歳児)



感性豊かな子どもの頃に、こんなに身近で生の観劇に触れるという貴重な体験の機会です。とても有意義な経験となり、心に残ってくれるものと思います。きりん組は舞台裏探検もあります。どうぞ、劇の様子や感想を聞いてあげてください。

観劇代として500円程度ご負担をお願いいたします。



きっちりさんとざっくりさん

先日参加した研修会で、発達クリニックぱすてるの和田先生から「発達の凸凹」についてのお話がありました。その中で「**きっちりさん**」と「**ざっくりさん**」あなたはどちらのタイプ?...というチェック項目が載っていたのでご紹介します。

- ・きっちりしたい、きっちりさせたい
- ・失敗しないように最悪を想定する(ネガティブ思考になりがち)
- ・真面目、慎重派
- ・凝り性、頑固、こだわり屋
- ・臨機応変が苦手(「同じ」が良い)
- ・ルールがあった方が安心
- ・「ねばならない」が強い、完璧主義
- ・人付き合いはあまり得意ではない
- ・思い通りにいかないとイラッとする

「きっちりさん」



- ・とりあえず大丈夫、できると思う
- ・まあいいやが得意、行動派(ポジティブに試行しがち)
- ・思い込み、勘違い、早とちりがち
- ・忘れん坊(大切でも、必要でも忘れる)
- ・好きなことに、時間を忘れて集中する
- ・嫌なことは後回しにしがち
- ・喜怒哀楽がはっきりしている
- ・にぎやかな方が好き、友達が多い
- ・言いたいことを我慢するとイライラする

「ざっくりさん」



みなさん自身、またはお子さんはどちらのタイプが強いですか？
<きっちりさんタイプ>で発達の凸凹が強く、それによって本人が困っていれば「自閉スペクトラム症(ASD)」としての支援が必要になります。
<ざっくりさんタイプ>で発達の凸凹が強く、それによって本人が困っていれば「注意欠如多動症(ADHD)」としての支援が必要になります。
 発達の凸凹は誰にでもあるものです。それによって本人が困っているかどうかが大事になります。

「発達障がい」よりも「**きっちりさんとざっくりさん**」という呼び方が、血液型や性格のように気軽に口にできるまでポジティブに普及してほしい...と和田先生はお話されていました。

小児科医 和田有子先生の講義資料より一部抜粋